

2024年度 全日空商事グループ連結業績ハイライト

1. 連結財務情報

〈 連結損益計算書 〉

(単位 : 百万円)	2024年3月期	2025年3月期	前期差
売上高	121,297	135,035	13,738
営業利益	4,757	4,709	△48
営業外損益	1,178	1,424	245
経常利益	5,936	6,133	197
特別損益	-	8	8
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,085	4,088	3

〈 連結貸借対照表 〉

(単位 : 百万円)	2024年3月末	2025年3月末	前期差
流動資産	48,304	53,242	4,938
固定資産	25,167	27,253	2,085
資産合計	73,471	80,495	7,024
流動負債	25,319	27,743	2,423
固定負債	8,527	10,728	2,200
純資産	39,624	42,024	39,624
負債純資産合計	73,471	80,495	7,024

2. 連結決算概況

- 当該事業年度における我が国の経済は、物価と賃金の好循環を背景に緩やかな回復基調を示した一方で、景気全体の力強さに対してはなお課題が残る状況となりました。このような状況下、**全日空商事グループ**は「**変化を捉え、挑戦する**」という基本方針のもと、**事業の多軸化・収益の複層化**を実現すべく自社の強みを最大限に活用し、事業拡大や新規事業領域への挑戦等、**グループ外からの収入拡大**に努めました。
- 結果として、全日空商事グループ連結**営業利益**は概ね**前年並み**、営業外収益で米国全日空商事での持分利益取込を計上し、**経常利益・当期純利益**は**2年連続で過去最高益**となりました。
- **電子（半導体）事業**は、当年度もグループ収益の柱となるも半導体市場全体のリセッション影響により減収減益、輸入青果物や加工食品の取り扱いを始めとする各種食品事業を行う**ANAフーズ**はラオス産バナナの販売拡大により**増収**となるも、物流の乱れや国内の需給バランスが一次的に乱れた影響で収益性が悪化し減益となりました。
- 総合免税店「**ANA DUTY FREE SHOP**」を成田空港と羽田空港で運営する**ADF**は、羽田空港第2ターミナルの国際線便数が増加する中、店頭での販促施策強化などにより需要を着実に取り込み**増収増益**、ANAが就航する国内24空港で主に**空港内ギフトショップ**を運営する**ANA FESTA**も、デジタルサイネージを活用した集客やMDの見直しにより、主要空港において着実に需要を取り込み**増収増益**となりました。また、観光土産品の企画・製造・卸売を行う**FUJISEY**は、観光客増加に伴う土産需要の高まりに加え、スポーツ団体や自治体との取引を拡大し、**2年連続で過去最高益**となりました。

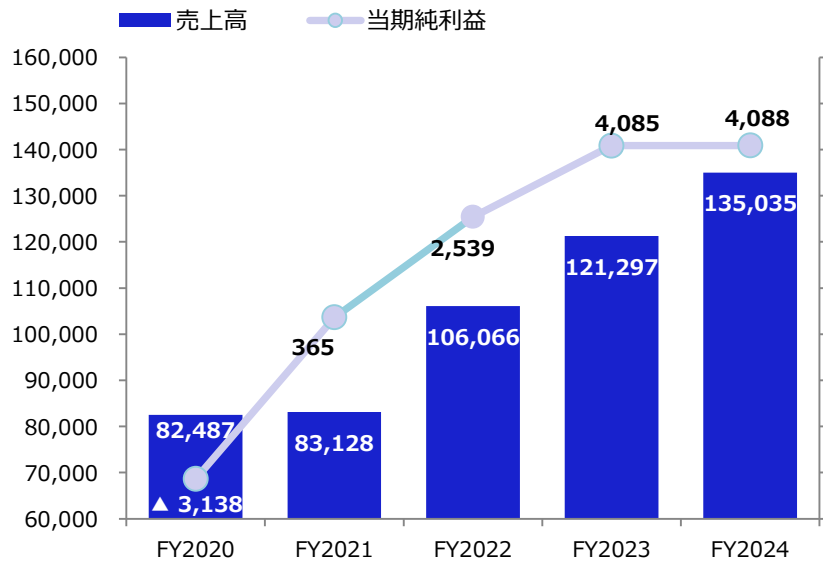
3. 主要財務数値推移

単位：百万円

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
売上高	82,487	83,128	106,066	121,297	135,035
営業利益	▲4,305	498	3,422	4,757	4,709
経常利益	▲2,682	1,474	3,826	5,936	6,133
親会社株主に帰属する当期純利益	▲3,138	365	2,539	4,085	4,088
総資産	60,656	60,585	67,345	73,471	80,495
純資産	29,871	31,265	34,557	39,624	42,024
自己資本比率(%)	49.2	51.6	51.3	53.5	51.7

→売上高・当期純利益推移

単位：百万円



→総資産・純資産推移

単位：百万円

